

だんだん

隠岐広域連合立 隠岐島前病院
<http://fish.miracle.ne.jp/dozen/>

今回の内容

1. はじめに
2. 楽しさを感じながら
3. 雲南圏域との交流会
4. 絆の深さを感じながら
5. 夢ってなんですか？
6. 大腸癌撲滅委員会
7. 唯一の理学療法士として
8. ソーラン体操
9. 事務職員としての役割
10. おわりに

1. はじめに

看護師長 松浦幸子

ニュースレターだんだん8号の発行にあたり、最近、島内・外よりこのニュースレターを読んでもくださる方々から声をかけて頂く機会が多くなりました。皆様に支えられていることを実感し、ありがたく感謝でいっぱいになります。心よりお礼申し上げます。

先日、「島根の地域医療を守り育てる住民ワークショップ」があり、島根県、大学、市町村、医療関係者、住民代表の方々、合わせて80名の参加のもと話し合いが行われました。私も当院のボランティアさんと共に参加させていただきました。参加して隠岐島前の病院とボランティアさんの関係が良い意味で特殊だったことに驚きました。当院のボランティアさんは「自分たちの病院に対して、住民として少しでも感謝の気持ちを伝えたい。という思いを行動に移している」ということです。「患者さんのために」とか「病院が良くなるように」とか「医療を良くするために」という思いと似てはいますが、活動の発端が異なっていました。日頃、ボランティアさんの活動（絵の展示・交換、手作りベンチ、手作り杖立て、などなど）に患者さんも喜ばれ、スタッフも私も癒され、いつも感謝していましたが、今回の会に参加して、改めて当院は住民の方から、感謝の気持ちをいつも届けられていることに気づかされました。この環境で働かせていただいていることに、これ以上のものはない幸せ者でした。日本一の地域医療を目指す私達は、日本一の住民さんに支えられ、守られていました。今一度、気を引き締めて皆さんの期待に少しでも答えられるよう、職員一丸で取り組んでまいりたいと思います。



師長さん手作りのアップルパイ



ボランティアさんが季節に合わせた絵を飾ってくれます。
この絵は冬の海苔摘みの様子

2. 楽しさを感じながら

看護師 小林 愛

私は今年6月から地元の病院である隠岐島前病院に勤務させて頂いています。看護師として一緒に働かせて頂き“楽しい”と感じたことのなかに“看護師さんの仕事への意識の高さ”と“院内外の連携の早さ”があります。



夏の外浜

ここでは本当に皆さんが患者様第一に考え、多忙な業務内にも関わらず 10 分、20 分でも時間があれば、数人でも集まればカンファレンスを行います。1 人の患者様の現在・今後について、時には患者様本人も交えて“その人らしさ・生き方”考えています。とにかく物事が決まり進むことが速く、他職種との交流・意見交換なども活発で 1 人 1 人の患者様をいろんな面からサポートしていることがわかります。小規模な・地域に密着している病院だからこそできる、「できてなんぼ！」なところもあるかもしれません。患者様・施設職員・ケアマネなどみーんな顔見知りというぐらいの認識度で退院や転院・外泊などの手続きが軽く・早く行えるという素晴らしさがあります。このことは患者様の QOL には重要なことですし、島前病院ならではの本当に素敵な部分だと思います。

まだまだ経験が浅く未熟な面ばかりなのですが、皆様に指導して頂きながら成長していきたいと思っています。よろしくお願いします。

3. 雲南圏域との交流会

看護師 為保 麻美

10 月 13 日に当院で「地域医療についての意見交換会」が行われました。昨年のだんだんでもお伝えした「雲南圏地域医療セミナー」の続編です。雲南圏域の病院スタッフの方々が「今度はぜひ隠岐に実際に行き、地域医療について感じたい」と申し出てくださり、看護師・理学療法士・事務職の方々が隠岐に来てくださいました。

交流会では、飯南病院と雲南病院からそれぞれの病院の取り組みを発表していただきました。当院からはリハビリ・医師・看護師が当院での特徴を、ジャパンハートの看護師からは活動内容や隠岐で働いた感想を発表しました。

「飯南や雲南は山間地域」「隠岐は海に囲まれた離島」と違う環境であり、異なる点もありますが目指す所は 1 つでした。「地域のためによりよい地域医療を実現させていくこと」です。よりよい地域医療の実現のためにすべきことや自らの信念など熱い思いを語り合いました。それぞれが違う病院で働き、職種もバラバラですがこんなに熱い思いを持っている方がたくさんいる島根県は心強いと感じました。

地域医療の充実に力を入れている隠岐島前病院ですが、隠岐だけで地域医療が完結するのではなく、本土の病院などとの連携も地域医療の充実には不可欠です。そのような中で、医療スタッフの数だけを確認することだけに焦点を当てず、やりがいを持ち医療に携わるものとして人間としての力も高めていける環境でありつづけることが重要だと感じました。どこで働くかではなく、誰とどのように働いていくかということが大切であると思える会になりました。

今回の意見交換会が開催されることになったきっかけは、3 年前の飯南病院の口腔ケアのチームとの出会いでした。私たちは普段から多くの方と出会い生活を送っています。しかし、その出会いをどのように繋げていくかということが、その後に関係してきます。隠岐島前病院には研修医や学生をはじめ多くの方が来てくださいます。その方たちが将来どのように隠岐と関わりを持つようになるのか。地域医療の原点でもある人との繋がりが地域医療の発展へと繋がり、地域全体が活性化していくことを望みます。





4. 絆の深さを感じながら

看護師 伊藤千晶

私は京都の病院で6年間看護師として勤めてきました。そしてこの8月にNPO法人：JAPAN HEART から、「医療の届かないところに医療を届ける」というコンセプトの元、海外医療を経て、僻地医療の研修として隠岐島前病院に来ました。

様々な医療や看護を目にした今、ここ隠岐島前病院で一番胸に響いたことは、「人と人の絆の深さ」です。家族同士はもちろんですが、患者对患者の協力し合う姿、そして医療者对患者の距離の近さをとても感じます。また入院時から目の前の治療だけでなく、患者様のQOLを考えた医療を行い、最期まで悔いなく過ごせるよう関わる姿にとっても胸を打たれました。看護として基本的なこと、そう思う方がおられるかもしれません。しかし1人の看護師が複数の患者を受け持ち、限られた時間の中で検査や処置・セルフケアなど様々な看護処置を行う中で実践的に行う事は困難なのが現実です。しかし、島前病院では疾患に対する看護を行いながら、それ以上に心のケア・親身なケアを患者様のこれまでの生活を延長線上に捉えながら行っています。例えばターミナル期にある患者様が「船に乗りたい…」とこぼされた言葉から、具体的にいつ、誰が、どのような形で連れて行くのか、先生を含め話し合いをされます。天気が良ければ海を見に散歩をしたり、自宅まで車に乗せて気分転換に行くこともあります。写真のように、患者様を集めて歌を歌ったり、体を動かしたり、お茶会をしたり・・・一人一人のスタッフがより良い医療を目指して前を向き、患者様のために刺激しあいながら高めあっている姿が本当に素晴らしく、輝いています。

そして、「医師が指示した、医師の決めた治療方針を行う」のではなく、疑問があればすぐに医療者間で話し合い、医者・看護師・看護助手・薬剤師・リハビリの理学療法士・作業療法士がそれぞれの観点から想いを伝えあい、連携し、一つの目標に向かって医療を行っているとても魅力的な病院であると感じています。

島の医療ということで不便さや急患の対応のむずかしさはありますが、それを強く感じさせず、「ないものはない」!!!あるものを使って工夫して医療しています。

看護師として、都会の病院とは違い、判断力も大きく必要とされていると感じ、1人に対する負担も大きいですが、自分の意見や考えを伝え、実践できる、やりがいをもってより近いところで医療を追求できる場所です。

何よりも、ここにはとても熱い心を持った、五感に優れた医療者がそろっており、「これが私の看護の目指すところ！」そう感じさせてくれる魅力的なスタッフが沢山います。本ではなく、文字ではなく、島に来て医療を見て、刺激を貰ってほしいと心から思います。

★ちなみに遊びのプロも沢山です★釣りに料理にBBQ/ウェークボードに・・・学ぶべきところばかりで充実した半年を送れそうです。私生活が充実しているからこそこの医療か！と感心させられます。ぜひ見に来てください。



食堂でのレクレーションの様子



手作りケーキで祝った誕生日



フェリーの見送り



皆で楽しんでます！





5. 夢ってなんですか??

薬剤師 嶋崎裕子

どうも。薬剤師のシマザキです。

突然ですが・・・あなたの夢は何ですか??私が周りによくする質問の一つです。

学生の頃、ただ漠然と離島で働きたいなあって思って、ここになんとなくふら～っと見学に来て就職しもう3年目になりました。最近思う事は、3年前想像していなかった環境で働いているなあって事です。もちろん、夢って何ですか?って周りに聞くなんて思ってもみなかったです。なんでかはわからないけど、ここで働いていると知らないうちにモチベーションが上がり、知らないうちにお母さん看護師さんみたいになりたいと思い、わからないうちに患者さんの事が好きになっていき、わからないうちに患者さんの笑った顔がもっと見たいって思いが強くなっていき、気づいたら3年目でした。患者さんの事を第一に考え動いている看護師さんの仕事ぶりをほぼ毎日見ている為か、熱い心を持った看護師さんと一緒にいる事が多いからかは、わかりません。でも、今ははっきり言えるのは新卒でもここに来て良かったって事です。こうなりたいて思う人に出会えたから。すっごい恐そうだけど、実は誰よりも相手の気持ちを察してる看護師さん、曲がった事は嫌いでなかなかうんって首をたてに振ってくれないけど、相手の事を第一に考えてる看護師さん、耳に入ってくる情報量が半端なくてたまぁにあれっ抜けてるよ～って病院スタッフに突っ込まれてるけど、いつでも相手が安心出来るように笑顔を絶やさない看護師さん、飾らずにありのままの自分で、相手と本気で向き合っている看護師さん、若者だけど新しい事を取り入れる事よりもこの事を知ってから、この人を好きになってから、本当に必要な事を取り入れようとしている看護師さん・・・こういう看護師さん達に出会えただけで、島前病院に来てよかったって思います。

ここにふら～って見学に来てスタッフの仕事ぶりを見て、話しをすると、きっと“夢って何ですか?”って聞きたくなると思います。ここは、夢を聞きたくなるような人が集まっている病院だなあって思いますね。



薬剤訪問で伺っている患者さんと



プライベートではミニバスの指導をしています

6. 大腸癌撲滅委員会

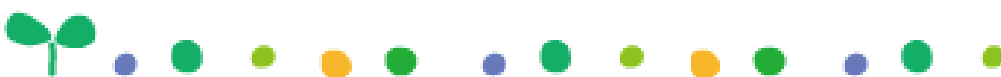
医師 遠藤健史

この春から島前病院で働いています、遠藤といいます。

松江出身で、出雲→島後→西ノ島と転勤してきました。現在、内科を中心に幅広く診療をしています。その中で特に力を入れているのは、大腸カメラです。僕はこの検査が好きで、患者さんに苦痛がないようにカメラを操作する事、ポリープを見逃さず、癌の予防とする事を目指しています。大腸癌撲滅委員会(委員長竹田 Dr)として、今後も盛んに活動していこうと思っております

隠岐に来て、昨年、今年と隠岐ウルトラマラソンに出ました。普段は妻と2歳半の息子と西ノ島の景色を見て回り楽しんでます。また、家庭菜園をしており、家の前を開墾し、少しずつ畑を広げています。西ノ島は夏の素晴らしさの半面、冬の寒さは厳しいと聞いています。そんな寒さに負けず、野菜も、自分と家族も育ていけるよう頑張っていきます。

写真は西ノ島での息子のベストショット、昨年家族と一緒にゴールした隠岐ウルトラマラソンです。





7. 唯一の理学療法士として

理学療法士 末長真之介

私は平成23年6月より隠岐郡西ノ島町にある隠岐島前病院にて勤務しています。それまで、福岡県の通所リハビリテーションにて3年勤務していました。現在、隠岐島前病院には、作業療法士3名、理学療法士1名が勤務しています。私が唯一の理学療法士ということもあり、最初はやっていけるのか不安でいっぱいでした。



リハビリの様子

離島という環境のなかで、療法士が少ないこともあり、自分の得意分野に関わらず、幅広い疾患に対応していかななくてはなりません。しかし、その機会が、新たに学ぶ意欲につながり、自分を成長させる機会にもなることを今は感じています。

また、離島という比較的小さなコミュニティのなかで、リハビリを提供するということには、たくさんの良い面もあることに最近気づくようになりました。退院後も、患者様がどんな生活を送っているのか、今どこの施設でどのように生活しているのか、そうした事を、在宅を訪問している同僚や、定期的に行っている施設訪問から知ることが出来ます。退院したらそこで終わりではなくその方の生活に、そして生き方に本当に関わることが出来る場がここにはあると思います。そして、患者様のことを本当に考えて対応している医師、看護師の方々、そして患者様を支える多職種の方々から医療人としての姿勢を学ばせてもらっていることも、とてもよい機会だと思います。



57cmの真鯛！

理学療法士としてまだまだ未熟な私ですが、これからひとつでも多くのニーズに応えていけるよう、成長していきたいと感じています。

また、プライベートな時間も隠岐という環境は本当に楽しませてくれます。夏の海で泳いだり、魚を釣ったりと充実した時間を綺麗な海で過ごすことが出来ます。これからも、西ノ島の自然を楽しみながら、患者様の本当に必要としていることに応えていけるリハビリを提供できるよう頑張りたいと思います。

8. ソーラン体操

看護助手 波多秀子

隠岐島前病院のおもに療養病棟を担当している看護助手の私たちは、患者さんの身体介助はもちろんですが、入院生活での気持ちを少しでも癒してもらおうと、担当ナースと共に午後の時間を使って運動をしています。といっても、施設とは違い皆さんが集まれるわけでもなく、カラオケで唄うわけにもいきません。



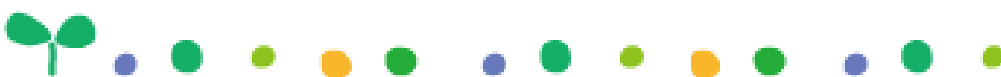
食堂に集まることができるのは、比較的症状の軽い方、リハビリを中心にしている方で、介助もしくは見守りの下で車いす・歩行車・リクライニングの車いすなどで食堂に集まります。なので、運動といってもそんなに堅苦しいものではありません。

通称“ソーラン体操”と言い、その名の通り誰もが知っているソーラン節を用いて手足を動かすもので、担当ナースと皆さんと一緒に唄いながら体操をします。私たちも「はー、どっこいしょ、どっこいしょ」と掛け声をかけてお手伝い。入院患者さんのほとんどが70歳以上、いえ70代の方も少ないくらい高齢なので、この体操はウケが良いんです(笑)



患者さんとのソーラン体操

そしてこの運動の後は、水分補給のお茶タイム。ここでも患者さんどうして話が弾みます。私たちが「昔は何をして遊びましたか？どんな歌が好きですか？」などと声掛けすると、次々にこんな事をした、あんな歌を唄ったと、実際に唄う方もいて・・・そんな話や歌を聞いたりと、患者さんの年代的に、私個人としては、何か自分の父親や、母親から聞いているような、懐かしい気持ちになってきたりします。





そんな楽しい時間が終わり、各病室へ帰っていく患者さんが、「よかったがね。またしたいね。」と笑顔で話しておられるのを聞くと、少しは気分が紛れてもらえたかな・・・と、私たちの口元もちょっと緩んだりして・・・(笑)

これから寒くなり、なかなか外へ散歩に出ることも難しくなるので、患者さんの気分転換を色々と考えていきたいと思います。

ちなみに来月は病棟内クリスマス会を開催予定です。

9. 事務職員としての役割

事務 須子晋一

隠岐島前病院で今年4月から、事務職員として勤務させていただいています。採用されて7か月。職場では、聞きなれない医療用語に戸惑い、様々なご相談に窮することも多々あります。ですが、医事係という窓口業務を担当させていただいているからでしょう、患者様から「病院への感謝の気持ち、お礼の言葉」をいただくことがあります。そのような患者様からの温かい言葉に励まされることも多いです。

地域住民の皆様の命を守るという使命をもつ島前病院は、離島医療に必要な医療の在り方・仕組みをつくり、これからも地域医療を支える病院へと変革し続けていくように思います。理由は、それを実現していける熱い思いをもったスタッフがいるからです。「地域の方々に必要な医療とはなんだろう」、「住民の方々の幸せにつながる医療サービスとは」、そんなことを考えながら、様々な職種の方と力をあわせ、事務職員として仕事ができるようになりたいと思っています。

私は、1ターンで、妻と子供を連れて、西ノ島にやってきました。全く知り合いもいませんでしたが、島の皆さんはとても温かく迎え入れてくれました。隠岐は、素晴らしい自然環境に恵まれています。海水浴、山登りも楽しめますし、さまざまな行事も行われており、私生活を満喫できる環境がそろっています。また、子供をのびのびと育てるには最高の環境ではないかと思っています。素人ですが、畑づくりにも家族でチャレンジしています。こちらに来る前、恩師から、こんな言葉をもらいました。「暑い、寒い、不便?」「でもきっとそれにまさる素敵な体験が待ってるよ。」今、その言葉は現実のものとなっています。



家族と一緒に畑づくり

10. おわりに

最近、病院内に設置しているご意見箱に「いろいろと声掛けをしてくれたり、優しくしてくれて嬉しかった」「心温まる対応に感動しました」とのメッセージをいただきました。このようなメッセージを頂き、嬉しく思います。また、元気になって退院される患者さんの姿や、患者さんの言葉に更なるパワーをもらいながら日々の業務を行っています。ありがとうございます。

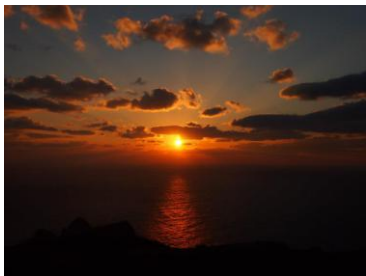
今回も最後まで読んでいただきありがとうございました。ご意見・ご感想などありましたら右記まで連絡頂けると幸いです。

隠岐広域連合立 隠岐島前病院
〒648-0303
島根県隠岐郡西ノ島大字美田 2071-1

TEL 08514-7-8211

FAX 08514-7-8702

MAIL (看護部)
dz-kaigo@sx.miracle.ne.jp



この時期雲の多い日が増えてきますが、晴れた日には素敵な夕日を見ることができます

